

卒業式式辞

月日が経つのは早いですね。皆さんの多くは、4年の歳月を経て本日学生としての最後の日を迎えられました。ご卒業、おめでとうございます。

この間、2022年に、大阪観光大学では、大学の基本理念として「大学憲章2022」を公表しました。その内容は、端的に言えば「自由を共に楽しみ、社会を共にいきぬく」というスローガンです。皆さんが過ごされてきた大学生としての生活こそは、この前半、すなわち「自由を共に楽しむ」ことが、皆さんの人生においてもっとも可能となる日々でした。それぞれのキャンパスライフは、いかがでしたでしょうか？

ここで「自由」とは、さしあたり自分の意思に基づいて生活をどう組み立てるかを決めていく自由です。もちろん、アルバイトによる制約など、なんでも自由というわけではありません。それにしても、何をどう選択するかにおいて決める主人公は皆さん自身でした。

しかし、皆さんの多くは、これから大学を出て社会に巣立ちます。これは、前のスローガンの後半部分の世界に入ることです。すなわち大学を離れて「社会を共に生きぬく」という新たな世界に船出をするということです。

憲章の前半部分にある「楽しむ」は、後半部分では「生きぬく」という表現に変わっています。それが意味することは、多くの仕事の場では今までのような自由ではなく、程度の差はあれ組織の管理の中で生きていくということを表現しています。しかも、その組織が活動している社会は、市場原理が支配する競争社会であるということです。

皆さんの今後の幸せな社会生活を願って、二つのメッセージをお送りしたいと思います。

第1に、「社会を共に生きぬく」スローガンにも、「共に」という言葉が含まれていることです。皆さんが生まれ育った時代、現代は個性の時代です。一人一人が自分とは何か、自分らしい生き方とは何かを強く意識しながら生きていく時代です。それは同時に、自分とは違う個性を持った人たちとの連帯と共に喜びや楽しさを感じ合うことができる時代です。人を倒して生き残る競争を通じてではなく、人と共に歩む協働あるいは同じ「きょうそう」でも共に創るという意味の共創を大切にこれからの社会を生きていきましょう。

第2に、このことはさらに広げて言えば、みんなの幸福と個人の幸福はメダルの表裏であることです。「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という宮沢賢治の言葉がこれを示しています。世界はいたるところで戦争が絶えません。皆さんは大学で観光学を学びました。「観光は平和へのパスポート」という国連決議があります。“Tourism for Peace”を胸に、平和な世界の建設に貢献していきましょう。

最後にロマン罗兰の言葉を贈ります。「今日の人々よ、若い人々よ、こんどはきみたちの番が来る！われわれを踏み越えて行きたまえ。そして前進したまえ。われわれよりもいっそう偉大で、いっそう幸福でありたまえ。」

2025年3月19日

大阪観光大学学長 山田良治